

Title	『詞林』総目次（創刊号～第五十号）
Author(s)	
Citation	詞林. 2011, 50, p. 74-86
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/67636">https://hdl.handle.net/11094/67636</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 『詞林』総目次（創刊号～第五十号）

## ■創刊号（一九八七年三月）

歌合歌に及ぼした屏風歌の影響―その受容と脱却―

田島 智子

「初恋」題詠歌考

佐藤 明浩

源氏物語奥人の系統―大橋本系統を中心に―

岩坪 健

大江匡房作「大唐大慈恩寺大師画賛」について

剣持 雄二

定家筆の私家集切―遍昭集・興風集・貫之集・惠慶集・高

伊井 春樹

光集・長能集について

## ■第二号（一九八七年十一月）

清輔本古今和歌集内裏切の一分類―顕昭注と基俊本校合を

田島 智子

持つ内裏切―

堤 和博

『一条撰政御集』論―「とよかげ」の部の特質―

師説自見集「光源氏卷々注少々」の成立過程―冷泉家に

おける『紫明抄』の撰取―

「職人歌合」の詠風―「七十一番職人歌合」の場合―

岩崎 佳枝

引用されたことばと擬声・凝態語と―「引用」の位置づけ

藤田 保幸

のために―

## ■第三号（一九八八年五月）

大島本源氏物語の本文―『源氏物語大成』底本の問題点―

伊井 春樹

朧月夜の尚侍就任による今上妃との兼帯について―賢木

山中 和也

巻断章の新視座として―

岩坪 健

今川了俊の源氏学―「光源氏卷々注少々」から伊予切へ―

佐藤 明浩

後葉和歌集の誹諧歌  
『撰集抄』の方法―仮託説話・非仮託説話併存の意味に向け  
て―

近本 謙介

紹介 岩崎佳枝著『職人歌合』…………… 山本 唯一

■第四号（一九八八年一〇月）

大島本源氏物語の本文―書入れ・ミセケチ一覧（二）―

伊井 春樹

「桐壺」―「夕顔」諸本の検討―データベース活用の初歩的試み―…………… 大谷 晋也

紫上の論―中の品の女性として―…………… 胡 秀敏

定家所用本『狭衣物語』―『百番歌合』依拠本文の考察―

西臺 薫

大江匡房作「大唐大慈恩寺大師画讃」について・続考

劔持 雄二

■第五号（一九八九年四月）

藤原登子について…………… 島田とよ子

徳川美術館蔵『住吉物語絵巻』の絵詞について

伊井 春樹

花屋玉栄詠『源氏物語巻名和歌』（解題と翻刻）

伊井 春樹

一休宗純の林和靖賛について…………… 中本 大

「名づける」「呼ぶ・いう」の引用論（二）

藤田 保幸

■第六号（一九八九年一〇月）

大君論序説……………

土佐光則筆『源氏物語画帖』について…………… 渡會 敦幸

きつねとゾングラス―秋成文学の一つの背景―

伊井 春樹

幕末の女流歌人・中西為子…………… 姜 錫元

「名づける」「呼ぶ・いう」の引用論（二）

管 宗次

■第七号（一九九〇年四月）

『御裳濯河歌合』俊成判序文の検討…………… 佐藤 明浩

『異本紫明抄』の性格―依拠本文と校異をめぐって―

岩坪 健

往生伝としての『とはすがたり』試論―夢を媒介として―

阿部 真弓

カリフォルニア大学バークレー校所蔵『百人一首秘註』

と中院通村の百人一首注『後十鈔』…………… 田島 智子

言霊学者・高橋残夢…………… 管 宗次

■第八号（一九九〇年一〇月）

『一条摂政御集』の他撰部についての一考察―詞書を中心として―…………… 堤 和博

平安時代に於ける庚申信仰…………… 島田とよ子

『御裳濯河歌合』俊成判の批評態度―歌合判詞の読解をめ  
 ぐって―……………佐藤 明浩  
 浄土宗談議書における説話覚書(二)……………近本 謙介  
 項目列記の「ト」表現について……………藤田 保幸

■第九号(一九九一年四月)

屏風歌歌人としての貫之―「草木」をめぐって―  
 ……………田島 智子  
 拒否する女たち―宇治三姉妹の考察―……………渡會 敦幸  
 寛仁二年頼通大饗屏風和歌とその場面……………伊井 春樹  
 「多情」攷―江西龍派詩に見える詩語の解釈をめぐって―  
 ……………中本 大  
 ロドリゲス日本大文典の不完全過去について  
 ……………福田嘉一郎

■第十一号(一九九二年四月)

紫上の運命と明石の君―「初音」巻を中心に―  
 ……………胡 秀敏  
 菊亭本『文机談』の性格―伏見宮本との比較を中心に―  
 ……………中原 香苗

『西行物語』に描かれた西行像―文明本を中心として―  
 ……………山崎 淳

『とはずがたり』に見られる『夜の寢覚』撰取の様相―  
 人物造型を中心に……………阿部 真弓  
 中世末期口語における「テゴザル」と「テゴザッター」中世  
 語動詞のテンス―アスペクト体系の一斑―  
 ……………福田嘉一郎

■第十二号(一九九二年一〇月)

桜が散ること―古今集桜歌の漢詩文基盤……………滝川 幸司  
 忠平の禁色聴許について―蘇芳(下)襲を通して―  
 ……………島田とよ子  
 成尋阿闍梨の渡宋―『成尋阿闍梨母集』覚え書き―  
 ……………伊井 春樹  
 接続詞「でも」「それでも」「ところが」「それどころか」  
 をめぐって……………赤羽根義章

■第十号(一九九一年一月)

〈特集〉『是則集』注釈  
 第十号の発行によせて……………伊井 春樹  
 『是則集』注釈・補注……………堀 和博  
 解題―坂上是則と『是則集』―……………伊井 春樹  
 定家本『是則集』について……………

■第十三号（一九九三年四月）

- 〔資料紹介〕三手文庫蔵『古今秘抄』…………… 近本 謙介
- 紫の上の退場―女三の宮・明石の君との相對關係をめぐつて…………… 胡 秀敏
- 接統詞「すると」「そうすると」「とすると」と「と」をめぐつて…………… 藤田 保幸

■第十四号（一九九三年一〇月）

- 『本院侍從集』考―配列に施された虚構を中心として…………… 堤 和博
- 源俊頼の歌学知識と和歌実作…………… 佐藤 明浩
- 『弁内侍日記』における人物描写―九条家を中心に…………… 阿部 真弓
- 『養老縁起』―解題と本文…………… 伊井 春樹
- ラシカッタという言い方についての覚書…………… 福田嘉一郎

■第十五号（一九九四年四月）

- 〔特集〕『松浦宮物語』…………… 伊井 春樹
- 松浦宮物語の方法…………… 阿部 真弓
- 『松浦宮物語』に見える須磨、明石巻の影……………

『松浦宮物語』における先行物語撰取の様相―弁少将の琴伝受と華陽公主との恋の場面をめぐつて―……………

- …………… 中原 香苗
- 『松浦宮物語』における万葉歌利用…………… 田島 智子
- 『松浦宮物語』における狭衣和歌の影響……………

…………… 長尾佐知子

- 『松浦宮物語』における漢籍利用に関するいくつかの問題…………… 中本 大
- …………… 海野 圭介
- 『松浦宮物語』の構想と周辺の文芸―長谷・住吉から弁少将の造型に至る―…………… 近本 謙介

…………… 山崎 淳

- …………… 滝川 幸司
- 橋氏忠の官職について……………

■第十六号（一九九四年一〇月）

- 〔資料紹介〕慶応義塾大学附属図書館蔵『西行繪詞』…………… 山崎 淳
- ……………
- 『源氏物語』の引歌一首―「神無月いつも時雨は……………」―…………… 堤 和博
- ……………
- 釋浄弁『古今集注』所引の『古今集』本文をめぐつて…………… 海野 圭介

引用されたコトバの記号論的位置づけと文法的性格

藤田 保幸

■第十七号（一九九五年四月）

道長詠「この世をば」歌の背景―長和・寛仁年間の道長と

実賢― 田島 智子

歌人弁内侍にとつての『弁内侍日記』 試論

阿部 真弓

永正八年七月二十五日御会和歌懐紙について

伊井 春樹

『狭衣下紐』の基礎的背景

思考・発話の内容節として働く「ヨウニ」について

川崎佐知子  
藤田 保幸

■第十八号（一九九五年一〇月）

内宴考 滝川 幸司

三卷本『枕草子』勅物考―官職についての勅物をめぐって―

藤本 修司

源氏物語宇治十帖のことばの線

加藤 昌嘉

〔資料紹介〕内閣文庫蔵『舞楽雑録』

中原 香苗

〔資料紹介〕翻刻 新出『沢庵宗彭詩書卷』

中本 大

■第十九号（一九九六年四月）

〈特集〉『十七番詩歌合』注釈

『十七番詩歌合』について

『十七番詩歌合』注釈

『十七番詩歌合』解説

伊井 春樹

海野 圭介

滝川 幸司

■第二十号（一九九六年一〇月）

保坂本源氏物語の表現―「けはひ」と「けしき」―

長城の光景―『今昔物語集』の始皇帝説話を窓にして―

『勸学院物語』と天台談義所

鑑定筆記抄（二）―小杉樞那の古美術調査の世界―

文法論の対象としての「引用」とは何か？

引用論の前提として―

『詞林』（創刊号）第二十号）総目次

大村誠一郎

箕浦 尚美

伊井 春樹

藤田 保幸

■第二十一号（一九九七年四月）

花宴考 滝川 幸司

際立ちゆく〈琴の一族〉―「葦開」の巻より―

..... 芦田優希子

連動する源氏物語―笛を吹くこと― ..... 加藤 昌嘉

萩原広道の文章法則論とその『源氏物語』への適用、付

法則の索引 ..... パトリック・カドー

西洋における『源氏物語』の受容―英語訳と教育に見る―

..... 胡 秀敏

■第二十二号（一九九七年一〇月）

詩臣としての菅原道真 ..... 滝川 幸司

光源氏の運命―藤壺事件の深層を中心として―

..... 朴 貴仙

八宮の「本心」と薫の「誤解」―薫に見る「昔物語」から

の逸脱・序章― ..... 中川 照将

『三代集之間事』考（上） ..... 海野 圭介

『現存和歌六帖』<sup>第二</sup>の研究 ..... 中村 友美

■第二十三号（一九九八年四月）

『源氏物語』第一部の構造―（ものごとし）の機能をめぐつ

て― ..... 藤井由紀子

『三代集之間事』考（下） ..... 海野 圭介

お伽草子と女人往生の説法―「えんがく」『花情物語』

「胡蝶物語」を中心に― ..... 箕浦 尚美

『鳥歌合』覚書 ..... 山崎 淳  
『鳥歌合』（翻刻） ..... 伊井 春樹

■第二十四号（一九九八年一〇月）

伊勢の涙 ..... 加藤 雄一

光源氏の須磨流離と尸解仙―聖徳太子引用による物語生

成― ..... 岡田ひろみ

四条隆親に関する一考察―「とはすがたり」の背景として―

..... 赤木ひと美

The Problem of Defining Japanese Critical

Terminology: Motoori Norinaga's Explanation Of 'Ayu'

(和歌論用語を定義すること―本居宣長の「文」をめぐって―)

..... Mark Meli

■第二十五号（一九九九年四月）

〈特集：『しのびね物語』〉

『しのびね物語』論―現存本から古本へのまなざし―

..... 伊井 春樹

『しのびね物語』における人物の属性 ..... 中川 照将

『しのびね物語』の基底―源泉としての『源氏物語』明石一

族の物語― ..... 藤井由紀子

『しのびね物語』のコトバの網―王朝物語世界の中の―

..... 加藤 昌嘉

『しのびね物語』の引歌……………中村 友美  
『しぐれ』考……………箕浦 尚美

■第二十六号（一九九九年一〇月）

「長能私記」逸文攷―『塵荆鈔』の位相……………松原 一義  
『源氏物語』藤壺の宮の出家……………

……………チョーティカプラカイ・アッタヤ  
『しのびね物語』の構造―「長恨歌」を視点として……………米田真理子

中院家旧蔵古今和歌集注釈関連資料考（一）―中院通茂・中院通躬・野宮定基との関わりを持つ典籍を中心……………海野 圭介

……………  
新出『葵の二葉』『底の玉藻』及びその周辺資料について……………福田 安典

■第二十七号（二〇〇〇年四月）

恵慶と伊勢の歌―その接点を求めて……………加藤 雄一  
「楼の上」から「幻」へ―物語終焉の視座から……………越野 優子

……………  
『源氏物語』松風卷（大堰川のわたり）考……………岡田ひろみ

「静かなる」六条院―『源氏物語』藤裏葉卷の栄華の実相……………藤井由紀子

『源氏物語』における〈死〉と〈ゆかり〉―紫の上の死を中心に……………市川 範子

源氏物語 宿木卷の機構カクゴ―反・明石夕霧の力、浮舟の力……………加藤 昌嘉

■第二十八号（二〇〇〇年一〇月）

源氏物語の心理描写―豊子愷訳に見る自然…引歌・心中思惟……………胡 秀敏

「物のあはれ」の三つの要素……………マーク・メリ  
〈小特集〉留学生から見た日本文学研究……………

中国における日本文学研究の状況……………謝 立群  
韓国における日本文学研究……………朴 貴仙

ニュージーランドにおける日本に関する研究……………アン・コモンズ

……………  
スロヴァキアとスロヴァキアの日本学科について……………エヴァ・ルカーチョヴァー  
タイにおける日本文学……………

……………チョーティカプラカイ・アッタヤ  
チャトウラセンパイロート・マッタナー  
英語圏における円地文字に関する研究……………

……………ゾーイ・ジェステイコ



〈海外研究者だより〉……………パトリック・カドー

■第二十九号（二〇〇一年四月）

『うつほ物語』二者一対の法……………加藤 昌嘉

『長承二年相撲立詩歌合』考―撰詩・撰歌および人選の方  
法―……………小山 憲美

第二種七卷本『宝物集』『跋文』考―平康頼と藤原親盛を  
めぐって―……………中川 真弓

『徒然草』における盛親僧都像と中国の隠逸者  
……………謝 立群

■第三十号（二〇〇一年一〇月）

六条院崩壊の論理―『源氏物語』若菜巻における―

……………藤井由紀子  
『石清水物語』における男主人公の心理と物語の論理  
……………井 真弓

源氏物語系図研究序説―本文資料的価値を離れて―  
……………楠 なおみ

宗祇の古典学―源氏物語研究の意義とその伝流―  
……………伊井 春樹

■第三十一号（二〇〇二年四月）

菅原清公伝年譜―附「菅原清公伝考」補遺―

……………滝川 幸司  
藤原実光考―院政期儒者論（二）―……………仁木 夏実

『徒然草』第二十一段考―「人遠く、水草清き所にさまよひ  
歩きたる」を中心に―……………謝 立群

古筆切の中の「仁和寺華嚴院弘融」のこと―伊賀常楽寺  
藏兼好・頓阿・弘融三幅対をめぐって―……………米田真理子

猪苗代兼寿『狭衣物語抄』の関連資料  
……………川崎佐知子

円地文字『妖』論―花瓶の役割を中心に―  
……………ゾーイ・ジェステイコ

■第三十二号（二〇〇二年一〇月）

『うつほ』の仲澄―作り物語の手法と指向―

……………加藤 昌嘉  
『源氏物語』の出家の表現―男女の違いをめぐって―  
……………チョーテイカプラカイ・アッタヤ

『徒然草』第十八段考―許由と孫晨の故事をめぐって―  
……………謝 立群

『金玉要集』覚書―その本文を中心に―……………山崎 淳

"Fence" as metaphor in Heian literature: Part I (比喩と  
つちの「垣」(上))……………Teresa Martinez Fernandez

■第三十三号 (二〇〇三年四月)

〈小特集〉中村本『夜寝覚物語』

中村本『夜寝覚物語』の〈夢〉の論理

藤井由紀子

中村本『夜寝覚物語』における幸福的結末の論理―第二

予言の表現と「結構」としての明石御方物語―

中井 賢一

中村本『夜寝覚物語』最終場面の意味について―改作本『寝

覚』は〈幸福〉なる物語であるか―

中川 照将

中村本『夜寝覚物語』のことばと方法―情意性形容詞を

中心にして―

中村 一夫

八代和歌抄切の検討と解釈―中世散逸私撰集の一考察―

井 真弓

■第三十四号 (二〇〇三年一〇月)

『落窪物語』・現実への志向―衣の記述を視座として―

鈴木麻里子

光源氏の〈琴の琴〉―第一部における―

和田 美香

随心院藏『峯殿詠哥集』考

海野 圭介

『Fence』 as metaphor in Heian literature. Part2 (比喩と

し)S「垣」(下) …… Teresa Martinez Fernandez

■第三十五号 (二〇〇四年四月)

伊井春樹教授御退官記念特集号

三十五号の発刊に寄せて

伊井 春樹

〈山がつ〉めく光源氏―須磨流離の姿―

岡田ひろみ

玉鬘の裳着―養女となる次第―

倉田 実

柏木不在の論理―柏木・弁少将の機能と夕霧・弁少将の対峙

中井 賢一

の構造―

伝国冬本源氏物語の世界―藤裏葉巻をめぐる―

越野 優子

『石清水物語』の後日談に示される「不義の子」の可能

井 真弓

性とその意義

三卷本『枕草子』の和歌―定子と清少納言の交流を中心に―

佐藤 雅代

定家の百首歌における「有明」―四季歌を中心に―

細川知佐子

泣く昔男―『伊勢物語』の物語構成―

木下 美佳

玄宗・楊貴妃・安禄山と桐壺帝・藤壺・光源氏の寓意―

荒木 浩

続古事談から見る源氏物語―

石原のり子

『大鏡』における「魂」観の再検討

川崎佐知子

■第三十六号 (二〇〇四年一〇月)

『春日社司祐範記』連歌年表

川崎佐知子

『大鏡』における「魂」観の再検討

石原のり子

続古事談から見る源氏物語―

荒木 浩

玄宗・楊貴妃・安禄山と桐壺帝・藤壺・光源氏の寓意―

荒木 浩

泣く昔男―『伊勢物語』の物語構成―

木下 美佳

第三十七号 (二〇〇五年四月)

〈特集・願文の世界〉

願誦文考補 …………… 後藤 昭雄

『江都督納言願文集』と『莊子』「逍遙遊」

李 育娟

院政期願文における「治天の君」像―藤原永範の鳥羽院関

連願文を中心に…………… 仁木 夏実

『菅芥集』についての基礎的考察…………… 中川 真弓

〈擬作〉の周辺―随心院本『啓白諸句』解題の補足をかねて―

…………… 荒木 浩

第三十八号 (二〇〇五年一〇月)

「柏木」、「柏木の右衛門督」、「柏木権大納言」のこと―

享受史を辿りつつ…………… 越野 優子

『大鏡』における天皇の〈声〉―一条天皇と三条天皇を中

心に…………… 石原のり子

『建礼門院右京大夫集』前半部の構成…………… 丹下 暖子

『徒然草』第七段と「莊子」再考―「夏の蟬」をめぐる―

…………… 陳 秉珊

堀内昌郷『源註遺言』について―天保期の源氏物語研究者

の一動向…………… 福田 安典

山中 雅代

第三十九号 (二〇〇六年四月)

曲水宴考証…………… 滝川 幸司

菅原道真の白色好尚と日本の美意識―白い花を詠む詩を通

して…………… 高 兵兵

薫の人物造型…………… 白 雨田

『とはずがたり』における女性の装束描写―東二条院の書

状による影響…………… 高嶋 藍

「持戒清浄印明」考…………… 中山 一磨

第四十号 (二〇〇六年一〇月)

「宮仕へ」する昔男―『伊勢物語』における機能―

…………… 木下 美佳

「と」の気脈―平安和文における、発話/地/心内の境―

…………… 加藤 昌嘉

『定家卿百番自歌合』三次本への改訂―四季と恋―

…………… 細川知佐子

頼意僧正伝記考―南朝参仕の一僧侶歌人の生涯―

…………… 勢田 道生

信多純一氏藏文政五年書写六段本『天狗之内裏』解題・

翻刻…………… 箕浦 尚美

■第四十一号（二〇〇七年四月）

宇治十帖〈解体〉と〈閉塞〉の論理（上）

中井 賢一

僧侶の神仙術としての避穀―『本朝神仙伝』を中心にして―

李 育娟

『徒然草』第九十七段における「莊子」再考

陳 秉珊

『観音冥応集』と宝泉寺縁起―蓮体の備中における書写活動をめぐって―

中川 真弓

『観音冥応集』 出典考―卷第三八話を例として―

山崎 淳

■第四十二号（二〇〇七年一〇月）

宇治十帖〈解体〉と〈閉塞〉の論理（下）

中井 賢一

物語における齋宮のモチーフとその効果―『栄花物語』

当子内親王密通記事に関連して―

『定家卿百番自歌合』三次本への改訂―雑部改訂から探る

時期と意図―

『源氏物語大成』の三条西家本

島原松平文庫蔵『南方紀伝』をめぐって―

仮名本先行説の再検討―

加藤 洋介  
細川知佐子  
勢田 道生

■第四十三号（二〇〇八年四月）

中古王朝物語の会話文―地の文との境界をめぐって―

黒木 邦彦

藤本真理子

清田 朗裕

森 勇太

『石清水物語』にみる男君たちの女性観―秋の中納言と伊予守の根源的な差異―

井 真弓

「御製のそばに」―鎌倉期勅撰集における「身分序列的配列」―

村山 識

『瑤囊鈔』年中行事記事の基礎的検討―中世後期〈年中行事歌合〉／『公事根源』享受史のために―

野上 潤一

蓮体所持本『沙石集』について―前稿の補足を兼ねて―

山崎 淳

■第四十四号（二〇〇八年一〇月）

願得寺蔵『疑開和歌抄』解題と翻刻

『夢の通ひ路物語』主題分析（二）―岩田中将・かざしの

君物語の意義―

秘伝の相承と楽書の生成（1）―〔羅陵王舞譜〕から『舞

楽手記』へ―

夢を見ることを忘れた頃に―安西法師の奇蹟―

村山 識  
井 真弓  
中原 香苗  
福田 安典

大阪大学古代中世文学研究会二〇〇回記念例会の報告

■第四十五号（二〇〇九年四月）

ナタ形指示詞の空間・時間における方向性―平安時代を中心にして…………… 藤本真理子  
世を倦じ山と人はいふ―喜撰歌と八の宮をめぐって―…………… 荒木 浩

『讃岐典侍日記』上巻の側面―天皇の代替わりという過渡期をめぐって―…………… 丹下 暖子  
『年中行事歌合』広本の基礎的検討―『太平記鈔』巻二十四との同文関係をめぐって…………… 野上 潤一

資料紹介・陽明文庫蔵「近衛基熙消息」…………… 川崎佐知子

■第四十六号（二〇〇九年一〇月）

『山家集』「心におもひけることを」歌群の再検討―仏典から捉える二つの心―…………… 前田 泰良  
『夢の通ひ路物語』主題分析（三）―六条の君入水譚にみる恋愛観―…………… 井 真弓

秘伝の相承と楽書の生成（2）―〔羅陵王舞譜〕から『舞楽古記』へ…………… 中原 香苗

『伊勢物語愚見抄』における人物比定の方法

…………… 木下 美佳

■第四十七号（二〇一〇年四月）

平安文学における五行の象徴とその機能―『土佐日記』と『竹取物語』をめぐって…………… スワンラダー・アッタヤ  
『伊勢物語肖聞抄』における作者説―注釈との関わりをめぐって…………… 渡部 真由

『とほがたり』の「恩」―伏見再会の場面を視座として…………… 高嶋 藍  
忠阿上人の生涯…………… 中山 一麿

「大阪大学・チューラーロンコーン大学日本文学国際研究交流集会」活動報告  
Female Anger in the literature of Heian period（平安文学における女性の怒り）…………… Nalandian Karine

■第四十八号（二〇一〇年一〇月）

『源氏物語』における「岩根の松」―賀歌の変容―…………… 白 雨田  
『源氏物語』と中世王朝物語の距離―「わららか」・「寝くたれ」の表現史―…………… 藤井由紀子

奥入付載の定家本源氏物語―飯島本藤袴巻の場合―…………… 加藤 洋介

与謝野晶子『新訳源氏物語』の成立―その本文生成に依拠したテキストは何であったかを中心にして―

宮本 正章

■第四十九号（二〇二一年四月）

勅撰集の中の内屏風和歌―作者・詞書を手がかりに―

細川知佐子

『松浦宮物語』の物語構造―主人公と女君たちとの相対的地位―

井 真弓

真名本『曾我物語』における大磯の虎―苦悩の克服と愛執の様相―

カナパット・ルーンピロム

■第五十号（二〇二一年一〇月）

〈特集・典籍の享受と学問の諸相〉

失われた定家本源氏物語―飯島本桐壺巻の場合―

加藤 洋介

『河海抄』における歌学書引用の実態と方法―顕昭の歌学を中心に―

松本 大

『五常内義抄』の享受と『聖徳太子御憲法玄恵註抄』(上)―『五常内義抄』と憲法学の交叉をめぐって―

野上 潤一

津久井尚重の研学と交流―附・名古屋蓬左文庫蔵『講席余話并抄出』所収学統図翻刻―

勢田 道生

『詞林』総目次（創刊号～第五十号）